

幸せを呼ぶ読書

講師 / 児童文学作家 上條さなえ

〈講演会に寄せて〉

私は10歳の日々をホームレスとして過ごしました。かつては戦争成金としての成功をおさめた父は、仕事への意欲を失い10歳の私を連れてお酒に溺れていきました。

私は昼は映画館で過ごし、夜はパチンコをして稼ぎました。一年後、私は養護学園に入り二度目の五年生となりました。青春時代には、自分が非嫡出子であることを知りました。

全てに絶望しながら、なんとか「人並みな生活」を夢見て今日まで生きてきた人生をお話したいと思います。

特に、私が悲しみのどん底にいる時、救ってくれたのは「本」でした。少女時代、石川啄木の本(歌集)は、希望をくれました。本と向き合う度、私は幸せを感じました。ですから演題を「幸せを呼ぶ読書」とつけさせていただきました。



〈プロフィール〉

1950年東京に生まれる。教員生活を経て創作活動に入る。吉川市児童館館長を11年務め、埼玉県教育委員会委員長を歴任。作品に「お菓子の街をつくった男」文溪堂、「10歳の放浪記」講談社、「わすれたって、いいんだよ」光村教育図書、59冊目の近刊「月と珊瑚」講談社より出版予定。

2019年6月29日 土 午後1時30分開場 / 午後2時開演

六花亭帯広本店 はまなしホール

入場無料 / 六花亭各店でお申し込みください。

定員になり次第受付を終了させていただきます。